

テーマ名 地域の教育で育てる自己肯定感と郷土愛

学校名 北海道阿寒高等学校

校長名 池亀 貞則

担当者 山上 祥吾

1 活動の趣旨

本校は全校生徒51名の小規模校である。「どうせ自分なんて」という自己肯定感の低い生徒が多い一方で、1学年1クラスで、落ち着いた環境の中で学習することができている。幼稚園・小学校・中学校・高等学校が組織する四校連携委員会という組織が設立されており、幼稚園から高等学校までのつながりが深い。また、近隣には生息する野生動物や地域で生産している食品も多いこと、釧路湿原や阿寒・摩周国立公園など雄大な自然や文化を学習する環境が整っていること、海外（台湾）で高校との学校間交流する機会が年2回計画されていることなどが本校の特徴として挙げられる。そのため、本校では『地域とのつながりに関する学習』『文化・環境に関する学習』『食に関する学習』『国際理解に関する学習』などを通して、「自分にもできる」などという自己肯定感を高めるとともに、自分の住んでいる地域に愛着を持ちながら地域に貢献できる生徒の育成を目指している。

2 活動計画

	I 取り組み	II 内容	III まとめ
地域とのつながりに関する学習	幼稚園交流 四校合同交流会	指導案作成 交流会の司会 街頭啓発	スライドを用いた発表・講評
文化・環境に関する学習	地域巡検（1・2年） 自然体験活動	阿寒湖散策 ムックリ講習 全校登山 スキー授業	全校生徒の前で披露
食に関する学習	家庭科課題研究 学校祭	地元野菜でつくるドレッシング講習会 地元阿寒ポークを使った全校焼きそば	スライドを用いた発表
国際理解に関する学習	見学旅行 国際交流	事前学習 英語で学校紹介 着付け・合唱・昼食などでの交流	他校への情報発信

3 活動事例

町内にある幼稚園から高校までの教師・生徒が連携し、交流をするという機会が複数回設けられている。園児児童生徒交流会では、高校生が主体となってグループをまとめつつ、簡単なゲームをして交流する。幼稚園交流では札幌大谷短大に講師派遣を依頼し、実際に

園児と高校生が一緒になって遊ぶための指導案の作成を体験した。体験後は交流した感想や反省点をスライドにまとめ、発表した。

地域巡検は、近隣の2つの国立公園である「釧路湿原国立公園」と「阿寒国立公園」について事前学習と現地見学（体験も含む）を通して自然の雄大さや人々の生活と環境保全、文化の継承などの大切さを学ぶ授業である。「地歴・公民科」「理科」の授業を利用して行う。1・2学年はアイヌシアター「イコロ」で講話、ムックリという伝統楽器の講習を通してアイヌ文化について理解を深めるとともに、「摩周・阿寒国立公園」にてマリモの生態系や自然保護と人々との生活（共生）について学んだ。

毎年7月に行われている学校祭では、地域の食材として有名な阿寒ポークを使用して全校焼きそばを行っている。3学年の選択授業である「家庭科課題研究」では、阿寒町の商工会の方の指導のもと、阿寒町でとれた野菜を使ったドレッシングをつくる体験をした。

台北市立中正高級中学との学校間交流も3年間継続して行われている。4泊5日の台湾への見学旅行時には同校を訪れ、YOSAKOI 演舞の披露や授業で作成した英語での学校紹介をするなどして交流した。同校が日本を訪れた際には本校にて浴衣の着付け体験や合唱、昼食を通して交流した。

4 成果と課題

授業に参加した結果、昔の人が守ってくれていた自然の中で今の自分が生きているなどという

「人々のつながり」や、学校で学習したことが他教科や生活の中で活用できるという「教科と教科のつながり」などの考えが深まった生徒がいる。また、地域の人たちと交流する中で地域の課題を認識するとともに、他校との交流を通して広い視野でものごとを見ることができるようになった生徒が増えた。教員間の中でも教科と教科のつながりを意識した教科横断授業といった教育課程が編成されるなど ESD の考え方を取り入れることで、授業改善につながった例もある。

一方で、まだまだ断片的な理解で終わっている生徒も多く、特に「短期集中の試験勉強」になりがちで、「1年生に習ったことを2年後3年後の自分に活かす」というような長期的で連続的な理解が乏しいのも事実である。今後は学んだことを一元化できるような工夫や学習後の振り返りを丁寧に行えるような時間の設定や授業づくりが課題となる。他人任せにせず、「自分がやらなければ」という高い自己肯定感を持ち、就職や進学のために一時的に地元を離れても、いつかは戻って活躍できるような郷土愛の強い生徒の育成を今後も目指していきたい。

